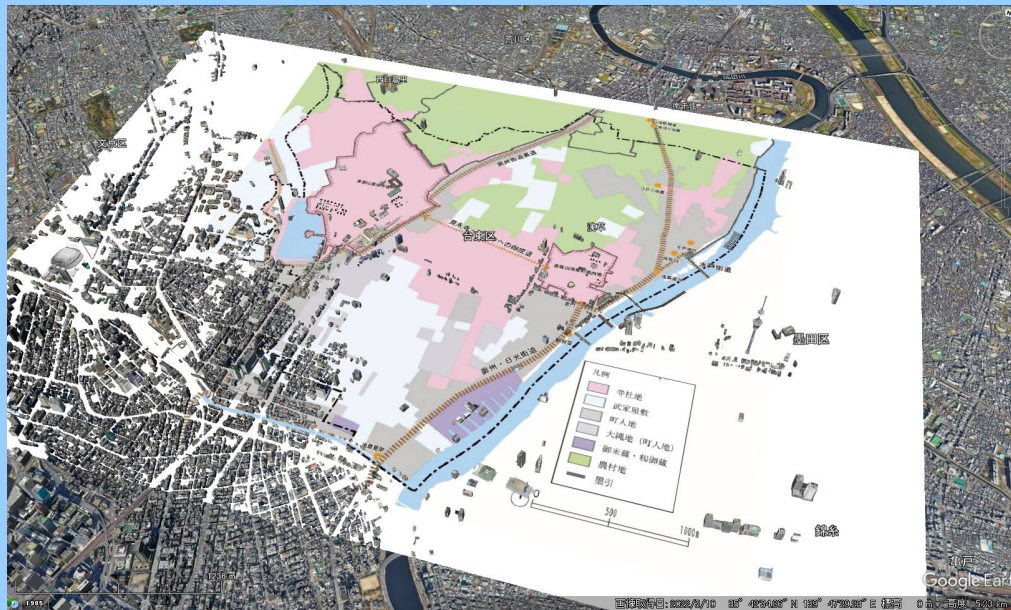


台東区の都市構造の可視化



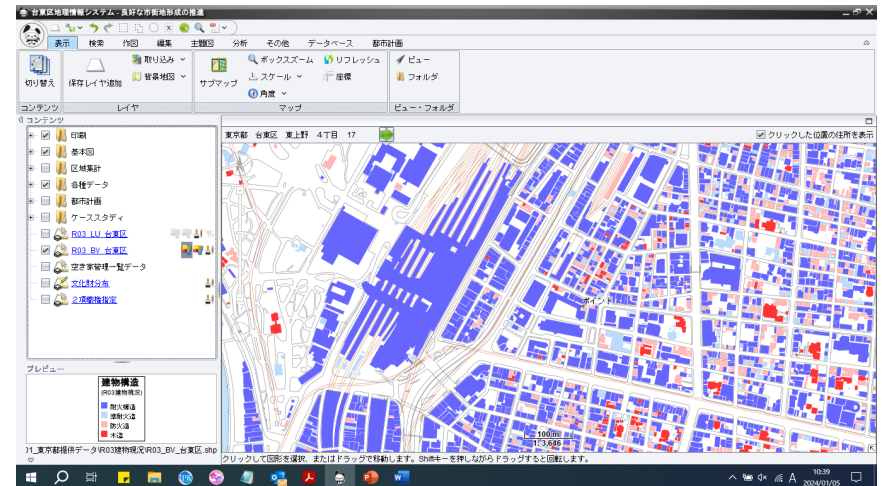
東京都 台東区 都市計画課

1. 本研修での目的

これからのまちづくりには、位置情報の活用・可視化が不可欠

台東区でもGISを導入しているけれど...

- 職員が使いこなせていない、そもそも使おうとしない。
- どんなデータがあると使いやすいのかわからない。
- どのように可視化すれば効果的なかわからない。
- なんとなくこれからは3Dへの対応・展開が必要な気がする。



実際に3Dによるデータ可視化を
体験できるシステム・データを触りながら、
今後のデータ活用についての方向性を検討。

2. データの重ね合わせ

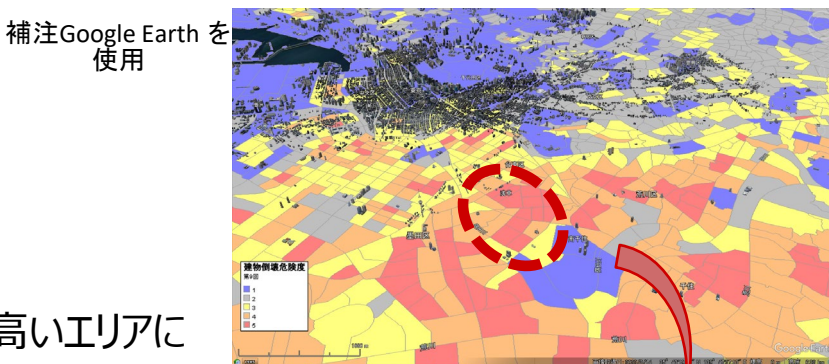
災害情報 × ●●●●

➤ 浸水想定区域 × 高齢化の状況



補注：Google Earth
を使用

➤ 建物倒壊危険度 × 高齢化の状況

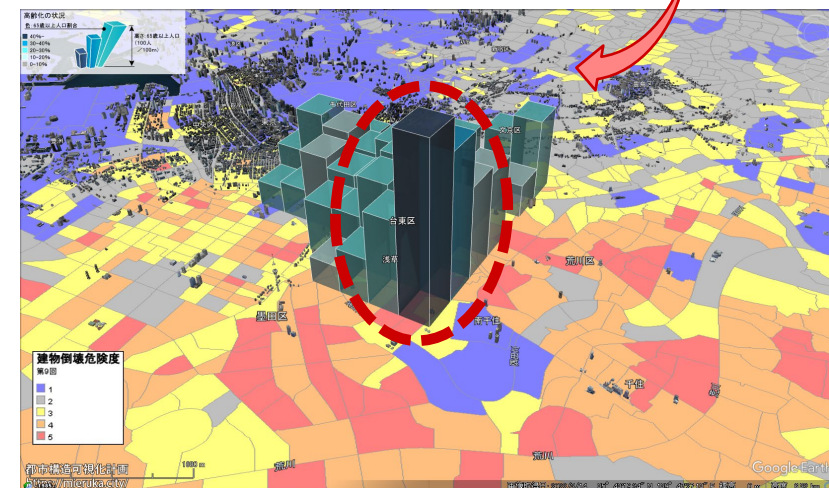


補注Google Earth を
使用

災害リスクが高いエリアに
多くの高齢者が居住



補注：都市構造可視化計画、Google Earth を使用



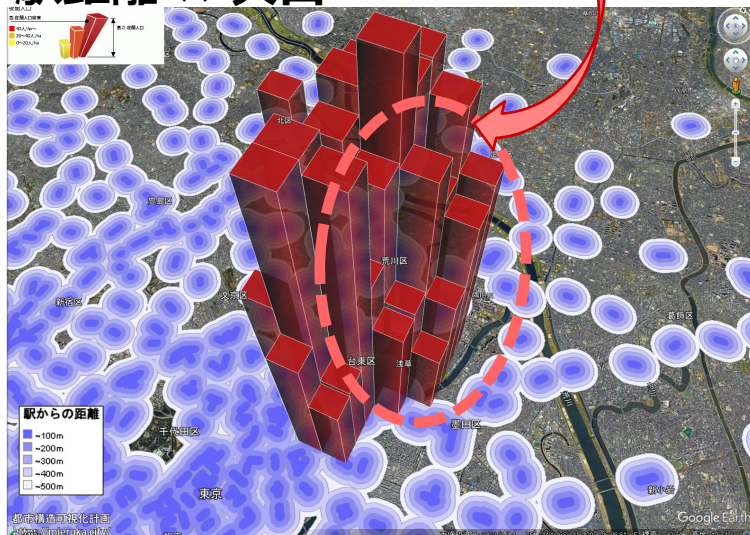
補注：都市構造可視化計画、Google Earth を使用

2. データの重ね合わせ

駅距離 × ●●●●

補注：Google Earth
を使用

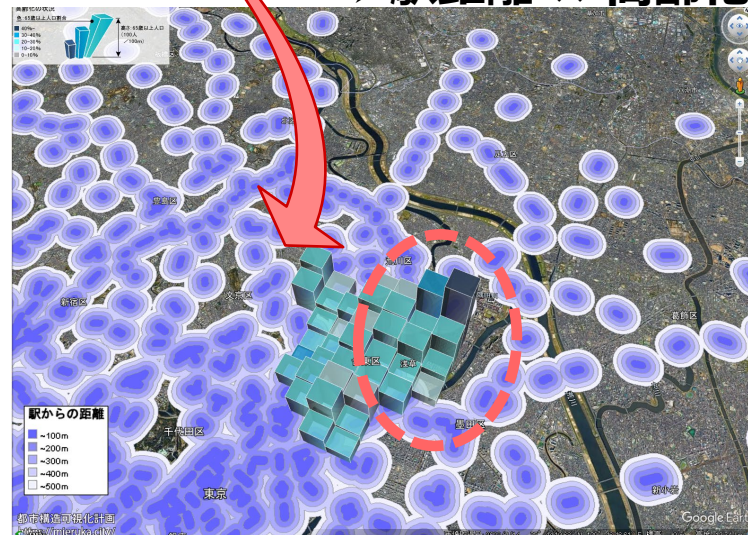
➤ 駅距離 × 人口



補注：都市構造可視化計画、Google Earth を使用

駅距離の近い場所に 人口が集積の傾向。
一方で、高齢者を含め 交通脆弱地に取り残
されている地区もあり。

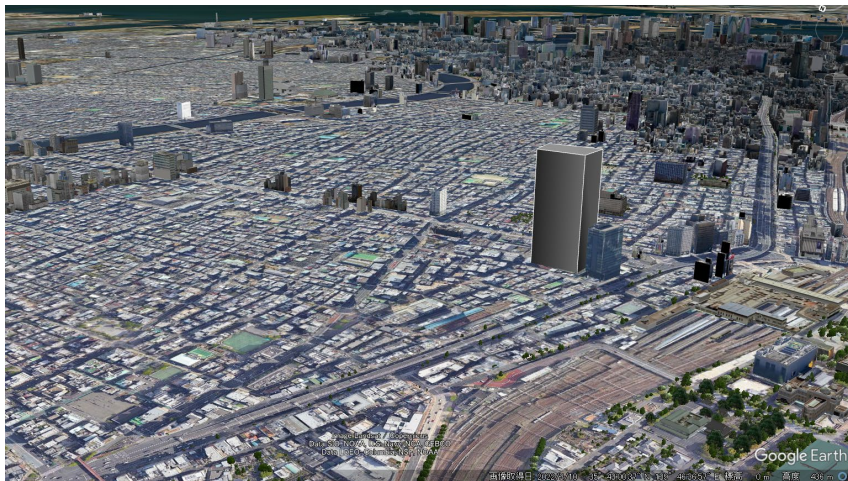
➤ 駅距離 × 高齢化



補注：都市構造可視化計画、Google Earth を使用

3. 景観シミュレーション

国立西洋美術館（世界文化遺産）からの建物の見え方



仮に現在の区役所敷地に
豊島区役所と同じ高さの建物が
建ったら．．．
(約189m)

補注：Image Landsat / Copernicus DataSIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO
Data LDEO-Columbia, NSF, NOAA、Google Earth を使用

西洋美術館の前庭からの眺望。
建物が大きく突出して見えてしまう。



補注：Google Earth を使用

4.庁内での利活用

地域との会議にも利用してみた



▲会議での 活用の状況

3Dで共有することにより、まちの現状・課題が直観的に理解しやすい。意見が引き出される。

5.課題・今後の展望

実際に使ってみて感じたこと. . .

□ 3Dデータの積極的な活用の必要性

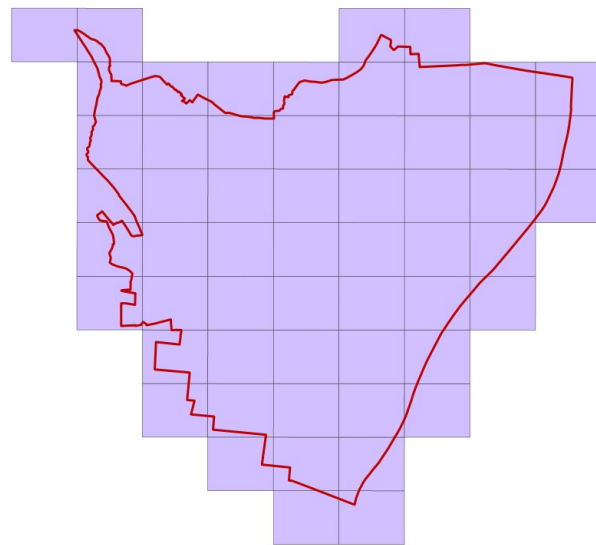
- これまでの2次元の図面等と比べ、見やすい・直観的に理解しやすいなどのメリットがあり、庁内のみならず地域とのコミュニケーションツールとして積極的に活用していく

□ 職員のスキルアップの必要性

- 今あるデータをフル活用できるスキル + 新たなデータを生み出せるスキル

□ 本区のスケール感・地域特性にあわせた データ整備の必要性

- 台東区は23区で一番小さい。
- オープンにされているデータは500mメッシュ単位。
- 本区にとって500mは大きいため、台東区にあったスケールのメッシュデータを整備していく必要あり。



▲ 台東区と500mメッシュのサイズ感

■ 台東区の位置



国立西洋美術館
(上野公園)



三社祭（浅草）

■ 基本情報

- 人口：208,824 人（R 5.4.1時点／住民基本台帳より）
- 面積：1,011 ha
- 隣接自治体：千代田区、中央区、文京区、墨田区、荒川区

隅田川
花火大会

